最高の用心棒

ダンデライオン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最高の用心棒

【Nコード】

N3373S

【作者名】

ダンデライオン

【あらすじ】

「あなたには私の用心棒になってもらうわ。」「ひよっとしたら俺……ヤバい人に巻き込まれた？
少年は少女を護る為に、（無理やり）アンドロイドになる。
バトルコメディ開幕！？」

こねってプロローグ？（前書き）

初めてなので遠慮なく意見を下さい。
酷評、待ってます。

「ねってプロローグ？」

「はあっ！？どついつことだよ！！」

あまりの衝撃に俺は思わず声を張り上げてしまっていた。

「いつの間にか冷蔵庫が故障してたおかげで中、全部腐ってる……
今月は完璧に昼飯抜きだ……」

はああ、とため息をもらしたところで腹の虫はさらに悲しく泣きわめくばかりだった。

俺の名前は神辺孝之^{かみへ たかゆき}。明日からめでたく高校生になる。

自慢になるが、俺の行くことになる高校は日本でもトップ10に入る程のデカい高校だ。

その名も！『私立鷲豆学園^{うぶこすまめが}』である。
なかなかいい名前だと思う。

だが俺の実家は山や田園に囲まれた田舎町にあるので親元離れて上京し、この安アパートに住むことになったのだ。

最初は学生寮に入ろうと思っていた。
が、スポーツ推薦やら試験上位者などが優遇措置によって全室持つて行ってしまったことにより、学園の紹介でこのボロアパートに住み込むこととなった……

(なんか腹減ってきたなあ)

携帯の時計をみるともう午後6時だった。

「ちょっと早いけど晩飯にするか。」

よっこらせ、と腰を上げ、冷蔵庫の中身を一度片付けてから食材を買いに行くことにした。

記憶の痛み

「んー、今日はコロッケが安いな。」

俺は今夕飯の材料を買いに近くのスーパーに来ています。

この『安井^{やすい}スーパー』はアパートから徒歩10分の位置にある至って普通のスーパーだ。

(だいたいこんなもんかな)

俺は買い物カゴにあらかた欲しい物を入れると、レジへ向かった。

「1780円になります。」

レジでは俺と同じ位か、それ以下らしい年齢の女の子が商品を会計していた。

(俺もバイトしないとなあ……)

買ったものを袋に詰めるとすぐにスーパーを出た。

空では夕日がもうすぐで沈もうとしていた。

(なかなかいい街だよな、ここ。)

街はお洒落でなんだか外国に居るみたいだ。

(ポチは今頃何してんだろう……)

ポチとは我が家で飼っている秋田犬のことである。

「分かつてはいたけど、しばらく会えなくなるのはやっぱり辛いな……」

もともと、この学校に来たのには訳がある。

二年前に死んだ姉貴がこの卒業生だったのだ。

姉貴は昔からなんでも出来たし、誰に対しても優しくかった。俺はそんな優しい姉貴を尊敬していた。

だけど三年前、姉貴は重い病気にかかった。

それはどんな病気だったのか、当時の俺は知らない。

知っていたのは、姉貴に残された時間はあと僅かだったということと、姉貴が病室でたった一人で泣いていたということだけだった。

俺は姉貴がどんな思いで最後を過ごしたのか分からない。

だけど、姉貴は最後の最後まで笑っていた。

それが俺にとっては痛々しく、悲しかった。

(なんで俺は何もしてあげることが出来なかったんだろう……)

今になってふと思う。

きっと理由にはなっていないかもしれないけど、だからこそ俺はこの学校を受けようと思った。

姉貴の生きた時間はもう戻ってはこない。だが、姉貴の生きた道を辿れば少しでも何かわかるかもしれない。

それが、ここに来た理由。

記憶の痛み（後書き）

なんだか鬱展開になってしまいました。それだけ仲が良かったということだと思えます。孝之にとっては姉は尊敬する人物であり、同時に自分も姉のような人間になりたいという願望や本人も気づかない嫉妬があり、そういうのが読んでいて視えたらいいなと思えます（汗）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3373s/>

最高の用心棒

2011年5月29日02時00分発行